



2016年2月5日

各位

会社名 株式会社 コックス
 代表者名 代表取締役社長 吉竹 英典
 (コード番号: 9876 JASDAQ)
 問合せ先 取締役管理担当 速水 英樹
 (TEL: 03-5821-6070)
 当社の親会社 イオン株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号: 8267 東証第1部)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2016年2月期(2015年3月1日~2016年2月29日)の通期業績予想について、2015年4月9日に発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2016年2月期(2015年3月1日~2016年2月29日)連結業績予想の修正

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	22,100	300	460	50	1.81
今回修正予想 (B)	21,100	△450	△280	△780	△28.28
増減額 (B-A)	△1,000	△750	△740	△830	—
増減率 (%)	△4.5	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2015年2月期)	21,688	32	211	36	1.33

2. 修正の理由

上半期は、国内事業における既存店売上高(前年比 102.1%)とEコマース売上高の伸長(前年比 194.0%)が増収・増益に寄与しました。第3四半期以降の売上高は、9月度及び10月度上旬までは、秋物商品が堅調に推移しましたが、10月度中旬以降気温が高めに推移した影響もあり、冬物商品の販売が、計画と大きく乖離しました。特に、記録的な暖冬となった11月度及び12月度に基幹事業の「ikka」が大きく落ち込み、全社の既存店売上高がそれぞれ前年比 89.4%、89.8%となりました。今期、施策として取り組んでいる、「LBC」事業と「VENCE EXCHANGE」事業の売上高は堅調に推移したものの、「ikka」事業における冬物商品の販売不振を補うには至りませんでした。

荒利益高においても、生産地の人件費等のコスト増や為替の影響により、昨年より商品調達コストは上昇いたしました。また、年間での売上指数が高い11月度及び12月度に、競合他社との冬物セールが加速し、売価変更が増加しました。その結果、荒利益高は計画を下回りました。

以上の結果、通期業績予想を修正いたしました。

直近の状況は、1月の初売りは苦戦しましたが、その後、防寒用アウター等の冬物実需商品が動き出し、正月休み明けの1月5日から1月末までの既存店売上高は前年比 96.8%まで上昇しております。売上計画乖離による過剰在庫についても冬物商品の消化促進を進めた結果、今期末までに解消します。また、商品の調達コストについても、調達先や生産地からの物流を見直すことで削減し、春物商品の調達コストは前年より改善しております。

来期に向けては、季節変動の影響による業績の計画との乖離を小さくするため、アパレルでは年間を通して安定的な売上が見込める、インナーやボトムスを強化するとともに、雑貨商品の拡大を図ります。商品仕入については、機動力のある身軽な在庫を維持するための仕入コントロールを徹底します。また、来期施策推進のための機構改革を2月1日付で実施し、早期の業績回復を目指します。

(注) 上記の業績予想は、本資料発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上